

昭和十七年九月

實踐局經濟部事業經過概要

大政翼贊會

REEL No. A-0512

アジア歴史資料センター

目 次

實踐局經濟部事業經過概要……………	一
第一 地域別發達經濟協議會活動經過概要……………	二
第二 中小企業再編成並配給機構整備ニ關スル活動經過概要……………	四
第三 新製感謝行事……………	六
第四 豐稔祈願行事……………	八
第五 農漁村關係各種懇談會……………	八
第六 貯蓄獎勵運動經過概要……………	一〇



實踐局經濟部事業經過概要

願ルニ昭和十五年十月本會ノ發足ト共ニ經濟部面ニ於ケル窺察新體制ノ建設ニ協力スベク企業局ニ經濟組織部ヲ設置シ「經濟新體制確立要綱」ノ發表ヲ見ルヤ政府ト相協力シ、之ガ具體化、實踐化ニ努メタルモ越エテ昨十六年四月本會ノ改組ニ伴ヒ企業局ノ廢止ニヨリ舊經濟組織部ハ新設ノ組織局經濟部トシテ登場、去ル六月更ニ本會機構ノ刷新機能ノ擴充強化斷行ニ伴ヒ實踐局經濟部トシテ面目ヲ一新シ今日ニ及ベリ。

カクシテ經濟部ハ新タニ設立セラレタル本會事務局分班規程ニ基キ、總務、商工、農林ノ三班ヲ設ケ總務班ヲ中心トシテ商工班ニ於テハ(一)經濟協力體制ノ確立(二)配給機構ノ整備及中小工業者ノ轉廢業(三)國防生産力ノ増強其ノ他ニ關スル事項ニツキ、マク農林班ニ於テハ農林水産業機構ノ整備強化及農林水産物ノ増産運動ニ關スル事項ニツキ夫々活潑ナル國民運動ノ推進ヲ策シツツアリ、一方戰時經濟ノ強力ナル運営上不可缺ノ重要條件タル國民貯蓄ノ増強ニ關シテモ政府當局ハシメ關係方面ト緊密ナル聯繫ノ下戰時貯蓄動員本部ヲ特設シ多大ノ努力ヲ傾注シツツアル次第ナリ。

昨年十一月以降經濟部ノ實施セル廣汎ナル各種事業ノ中、主要ナルモノハ、高度國防國家建設ヲ最高目標トシテ、生産ノ増強、國民生活ノ確保ニ寄與スベク、地域別經營經濟協議會ノ開催ヲハジメトシ、中小企業ノ再編成並ニ配給

機構整備ニ關スル各種ノ會合及ヒ調査、農業並ニ漁業機構ノ再編成促進、農漁業職域組織ノ確立促進、戰時食糧増産運動ノ促進、農漁村民志氣揚揚等ヲ圖ルタメノ協議會、懇談會、調査、祭典行事並ニ國民貯蓄獎勵運動等ナルモ、之等ニ關スル活動經過概要ヲ摘記セバ次ノ如シ。

第一 地域別翼賛經濟協議會活動經過概要

地域別翼賛經濟協議會ハ昨年十一月以來實施シ來ルモノニシテ、所謂經濟ブロックノ觀點ヨリ全國ヲ概ネ九ブロックニ區分、當該地域産業經濟界ニ於ケル各企業經營擔當者並ニ直接生産指導者及ヒ關係團體代表者ヲ以テ構成、高度國防國家ノ建設ト經濟總力ノ發揮ヲ目途トスル上意下達、下情上通ノ機能ヲ通シ、重要物資ノ生産増強、能率増進、生活必需品物資ノ確保並ニ配給ノ円滑化、食糧増産、輸送力ノ強化擴充、價格形成ノ統一、的調整及ヒ産業再編成等々生産力擴充經濟總力發揮ノ爲富面スル重要課題ノ解決ニカメツ、汎ク産業經濟界全分野ニ於ケル公益優先、職域奉公ノ翼賛經濟理念ヲ振起身揚シ職域ニ於ケル國民組織ヲ現實ニ推進セシムヘキ官民協力優勢ヲ確立シ以テ經濟新體制ノ樹立促進ニ邁進セントスルモノナリ。

而シテ之ヲ目的達成ノ爲全國ヲ九地域即チ中央(東京、關西、大阪)、中部(名古屋)、九州(福岡)、中國(廣島、四國(松山)、東北(仙臺)、北陸(金澤)、北海道(札幌)一括)内ハ開催地ニ分テ、既ニ開催セルモノ左ノ如シ。

名 稱	開 催 期 日	開 催 地
第一回 中央經濟協議會	昭和十六年十一月二十二日	東京市
第一回 九州經濟協議會	同 十六年十一月二十四日	福岡市
第一回 中部經濟協議會	同 十六年十一月二十六日	名古屋市
第一回 關西經濟協議會	同 十六年十一月二十九日	大阪市
第一回 九州經濟協議會	同 十六年十二月二十四日	福岡市
第一回 北海道經濟協議會	同 十七年一月二十日	札幌市
第一回 中國經濟協議會	同 十七年三月七日	廣島市
第一回 四國經濟協議會	同 十七年三月九日	松山市
第三回 九州經濟協議會	同 十七年七月二十九日	福岡市

而シテ右會議ハ開催各該地域關係産業經濟界ノ熱心ナル協力ノ下ニ極メテ順調且ツ効果的ニ遂行、眞ニ官民一體ノ實ヲ舉ゲ謂ハバ第一期ニ於ケル運動ヲ了シタリ。然ル處本年六月ニ至リ、本會ノ機能刷新ノ期ニ達シ、本運動モ亦新ナル構想ノ下ニ之ガ強化擴充ニ一段ノ工夫ヲ凝ル以テ時局下本協議會ノ成果ヲ更ニ充全ナラシムル爲メ目下關係當局トノ緊密ナル連絡ヲ保持シツツ慎重具體案ヲ検討ヲ進メタル結果、成案ヲ得、近ク強力ナル再發足ヲナスノ運ビトナレリ。

第二 中小企業再編成並配給機構整備ニ關スル
活動經過概要

抑々中小企業ノ轉廢業問題ノ重要性ハ高度國防國家體制ノ一環トシテ國民經濟並國民生活ノ再編成ヲ戰爭遂行上ノ基本課題トシテ與ヘラレテ居ル點ニ在リ從ツテカ、ル重大問題解決ノタメニハ周到ナル對策ト強力ナル政治力ノ發動必要ナリ。

然ルニ從來轉廢業問題ノ進捗セザリシ根本的原因ハカ、ル周到強力ナル對策ト政治力即チ政府ノ指導性ヲ強力ナラシメ更ニ政府ノ方針ヲ強力ニ展開スベキ業者及國民ノ主體的ナル組織及運動ヲ缺如セシ點ニ在リ、斯クテ本會經濟部ハカ、ル組織及運動ノ成長發展ヲ唯一ノ基本目標トシテ凡ニル活動ヲ集中セリ。即チ先ヅ轉廢業問題ニ對スル部内ノ陣容並體制整備ノタメ從來ノ(組織局經濟部)ノ中小企業班及勤勞組織班ヲ統合シテ第三班トシ、本班ヲシテ專ラ本問題ノ處理ニ當ラシメタリ。

時恰モ日米交渉ノ行儀ニヨリ國ヲ學ゲテ協力一致、慎重事ニ當ルベキ秋ニ際會シ、本班ハ國內體制ニ後顧ノ憂ナカラシメムコトヲ期シ先ヅ昨年十一月月中旬、十二月下旬ノ二回ニ亘リ中小企業ノ現狀調査ノタメ全班員ヲ北海道ヲ除ク全國ニ派遣シ、政府ノ整備方針ノ徹底狀況下之ニ對スル業者ノ動向トノ視察ニ當ラシメ、之ニヨツテ轉廢業ヲ阻止セ

ル原因ト業者ノ動向ニツキ、全國ニ亘ル概況ヲ明シ、更ニ此ノ調査ニ基キテ中小企業整備ニ關スル經濟部ノ方針ヲ略々確定スルニ到レリ。

然ルニ大東亞戰爭勃發後最初ノ通常議會ヲ迎ヘ更ニ戰時下ニモ拘ハラズ學國必勝體制整備ノタメノ總選舉ヲ斷行スルノニ大飛躍の新段階ニ際會シ、本會マタ全力ヲ學ゲテ翼賛選舉啓蒙運動ニ從ヒ、爲メニ轉廢業問題處理ニ關シテハ暫ラク之ヲ靜觀スルノ止ムナキニ到レリ。

之ヨリ先政府ニ於テハ三月、閣議ニヨツテ中小企業整備ニ對スル基本方針ヲ決定シ更ニ四月二十一日「小賣業整備要綱」、次イテ八月二十一日「中小工業整備ニ關スル件」ガ決定セラレ、積極的ニ整備促進ノ方針ガ逐次進メラレタリ。然ルニ總選舉ノ餘燼未ダ收マラズ相次ク重要國策ノ決定ト國內治安確保ノ必要上活潑ナル整備ノ促進ハ具體的ニハ運々トシテ進捗ヲ見スシテ今日ニ及ベリ。

此間本會ニ於テモ機構改革等ノコトアリテ陣容並ニ全體トシテ本會活動方針ハ最近ニ到リテ漸ク整備決定セララル等ノタメ經濟部ニ於テモ本問題ニ關スル具體的且ツ積極的ナル活動ハ今後ノ實施ニ俟ツノ外ナキ次第ナリ。

最近ニ於テモ本問題ヲ總レル道般ノ狀態ニ激變ナキタメ實踐局經濟部トシテハ未ダ對外的ニ具體的方針ヲ公表シ得ルニ到ラザルモ時局下轉廢業問題ノ重要性ニ鑑ミ之ガ處理ニ關スル本會ノ協力方ニ關シ過般來關係各省ハジメ關係團體ト連絡協議ヲ重ネツ、アリ早急ニ活動方針ヲ決定スベク目下鋭意準備ヲ急ギツ、アリ。

第三 新穀感謝行事

新穀感謝祭ハ昭和十年、時ノ内閣調査局長官吉田茂氏ヲ始メ官民有志ニ依ツテ舉行セラレ、爾來新穀感謝祭委員會ニ於テ毎年執行シ來リタルモ昨昭和十六年各方面ノ希望モアリ大政翼賛會ヲ主催者タルシムルコト適當ナリト認メタルヲ以テ本會ニ於テ本行事ヲ主催スルコト、ナリ、本會内ニ右行事運営委員會ヲ設置シ關係官廳ノ後援、各種團體協賛ノ下ニ十一月二十三日ヲ中心ニ左ノ行事ヲ實施シ、國家ノ重儀タル新穀祭ノ意義ノ徹底、尊農敬米、生活指導、食糧増産ヘノ國民的總力結束ニ對スル一大國民的行事ヲ展開シ豫期以上ノ成果ヲ收メタリ。

行事概要左ノ如シ。

一、明治神宮ニ於ケル祭典

昭和十六年十一月二十三日明治神宮前ニ大政翼賛會獻納内地米十二俵、滿洲建國勳勞奉仕隊米穀増産特別班玄米十俵、其他内地各道府縣、樺太、朝鮮、臺灣、南洋、關東州、滿洲移民地、各農林關係學校、其他農漁關係各種團體ヨリ獻納ノ農林水産物七二六點、獻納者六八八名ニ達シタリ。右ハ東大農學部、東京農業大學、東京高等農林學校、東京高等蠶糸學校、農業教育專門學校、國學院大學、水産講習所、産業組合學校ノ學生生徒ノ奉仕ニ依リ内院及外院廻廊ニ陳列シ、外院廻廊陳列ノモノハ一般奉拜者ノ參觀ニ供シタリ。

同日午後一時三十分ヨリ安藤副總裁、井野農林大臣、有馬官司外關係者六百名神前ニ參拜シ中島明治神宮權官司司祭ノ下ニ執行シ尙參列者ニ對シ神符、神饌、新穀及白酒ヲ頒與シ、明治神宮境内ニ於テ直會ヲ執行シタリ。

二、地方各地ニ於ケル祭典及行事

道府縣所在地及各市町村ニ於ケル祭典及行事ハ翼賛會道府縣支部及市町村翼賛會支部ガ主催或ハ他ノ團體ト共同主催ノモトニ各地ニ於テ盛大ニ執行セリ。而シテ地方ニ於ケル趣旨普及方法ハ夫々種々ナル方法ガトラレコ、ニ列舉ナキモ公報、ポスター、ピラ等ヲ配布シ祭典執行方式、各家庭感謝ノ言葉ヲ示シ或ハ又新穀感謝週間設定ニヨリ増産強調日、作業能率増進日、新穀感謝日、節米日、管理米供出促進日等ヲ實施、又木灰回收、厨芥利用、落穂拾ヒ等増産ニ、節米ニ夫々趣旨普及ノ徹底化ニ力ヲ注ギ殆ンド全國各地ニ展開セラレタリ。

三、全國各戸家庭行事

學校、職場等ニ於ケル訓話、隣組回廊板等ニ依リ之レヲ指示シ、全國各戸家庭行事トシテ食前食後ノ感謝、食生活指導、厨芥利用等ヲ行ハンメタリ。又特別行事トシテ百貨店等ニ於テ店內アナウンス、カード配布等ガ行ハレ、食糧感謝ノ指導、食事指導等ヲ行ヘリ。

四、趣旨ノ徹底

凡ニ宣傳機關ヲ動員シ各種ノ方法ニヨリ趣旨ノ徹底ヲ期セリ。

第四 豊穰祈願行事

新穀感謝行事ノ本會主催ニ伴ヒ表裏ノ關係ニアル豊穰祈願行事モ昭和十七年ヨリ本會ニ於テ主催スルコト、トリ、運営委員會ヲ設ケ、關係官廳後援、各種團體協賛ノ下ニ、全國民齊シク國家祭祀ノ意義ヲ體シ、聖戰下ニ於ケル生産力擴充ノ要請ニ應ヘ、穀石ノ決意ヲ堅ムベク祈年祭ヲ期シ全國一齊ニ豊穰祈願行事ヲ實施シ、中央地方ニ於ケル祭典ノ執行、職場、各家庭ニ於ケル行事ノ指導、ポスターノ配布、趣意書並ニ關係資料ノ配布、週報、寫眞週報ヲ始メ各種新聞雜誌ニ記事掲載、ラヂオ放送、窓新聞等ニヨリ趣旨ノ徹底ヲ圖リ多大ノ成果ヲ收メタリ。

第五 農漁村關係各種懇談會

一、部落農業團體強化促進懇談會
關係官廳並ニ關係團體等ニ於ケル部落農業團體關係ノ權威者ヲ以テ部落農業團體ノ整備強化方策樹立ニ關スル懇談會ヲ數回ニ亘リ開催スルト共ニ地方的ニモ優秀部落團體ヲ中心ニ十數ヶ所ニ於テ開催シ部落農業團體ノ活動促進ニ努

メタリ。

二、食糧増産並ニ桑園整理懇談會

食糧増産並ニ桑園整理ヲ總リ之ガ圓滑ナル遂行ニ資スル爲メ、中央ニ於ケル懇談會ヲ始メ全國ノ主要地九縣ニ於ケル懇談會ヲ開催セリ。

三、漁村組織ニ關スル懇談會

漁村組織ノ確立ヲ促進スル爲メ中央ニ於ケル官廳、團體等ノ懇談會、地方ニ於ケル懇談會ヲ開催セリ。以上ノホカ、草木灰蒐集、自給肥料増産等ニ關シ關係官廳、團體等ト協力シテ之ガ徹底ニ努メタリ。

第六 貯蓄獎勵運動經過概要

10

大藏省國民貯蓄獎勵局發表ノ「昭和十七年度國民貯蓄増強方策要綱」並ニ「昭和十七年度國民貯蓄方策實施要目」

ニ基キ「戰時貯蓄勳員運動展開方策」ヲ樹立シ目下本年度本會ニ於ケル國民貯蓄運動ノ展開ヲ圖リツ、アリ。

本年度前期ニ於ケル實施事項並ニ計畫中ノ事項概要左ノ如シ。

一、昭和十七年度前期貯蓄増強運動概要

(一) 貯蓄増強運動展開機構ノ整備

(イ) 戰時貯蓄勳員本部ノ設置

右ハ本會事務總長ヲ本部長トシ實踐局長ヲ副本部長トシ、運動ノ企画機關、運営機關ノ外諮問機關及ビ協力機關ヲ置キ、貯蓄運動ニ當ルベキ中核體ヲシメムトス。

(2) 貯蓄ト生活研究會ノ設置

貯蓄ト生活トニ關スル重要問題ヲ檢討スル目的ヲ以テ設置セラレタル機關ニシテ、財政、金融並ニ國民生活ニ關スル權威者ヲ以テ構成ス。

(二) 貯蓄増強運動ノ展開

(イ) 戰時貯蓄勳員中央協議會ノ開催

六月十八日大東亞會館ニ於テ開催ス。各界權威者、全國支部主管部長及ビ大日本翼賛壯年團本部長出席「二百三十億圓國民貯蓄達成ニ關スル件」ヲ協議ス。

協議ニ入ルニ先立ち東條內閣總理大臣ノ授換並ニ賀屋大藏大臣ノ講演アリ。次イテ後藤事務總長座長席ニ着キ協議ニ入り、各方面ノ代表者ヨリ意見ノ陳明アリ。

次イテ小倉正恒氏ノ動議ニ依リ「二百三十億圓貯蓄必成ノ誓」ヲ申合セタリ。

(2) 道府縣及ビ六大都市支部主管部長及ビ大日本翼賛壯年團長會議ノ開催

貯蓄増強運動ニ關スル本部側ニ於ケル諸方針ノ徹底ヲ圖ルト共ニ運動展開ニ就キ協議ヲ行フ。

(3) 地方貯蓄協力會議ノ開催

六月下旬ヨリ七月上旬ニ亘リ道府縣、六大都市、貯蓄協力會議ヲ開催セリ。

(4) 貯蓄ト生活研究會ノ開催

六月十一日「生活の合理化」ヲ主題トシテ第一回研究會ヲ開キ、同十五日第二回研究會ヲ開催セリ。第二回研究會ニ於テハ「貯蓄の觀點に立ちたる國家資金計畫と國民生活との關係」ヲ主題トセリ。

尙本研究會ハ本年度後期ニ於テモ繼續開催ノ豫定ナリ。

(5) 前戰貯蓄呼應運動

(イ) 官廳側トノ連絡會議ノ開催

前戦將兵ノ國民貯蓄増強協力ト赤誠ニ感謝ヲ兼ネ、統後國民ノ貯蓄増強促進ヲ期シ、資料蒐集其
他ニ關シ關係官廳各係官トノ間ニ前後二回ニ亘リ連絡會議ヲ開催セリ。

(四) 前戦貯蓄呼應運動ノ展開

道府縣並ニ六大都市支部ニ於テ適切ナル措置ヲトランムルヲ指示ヲ發セリ。

(六) 國民貯蓄組合強化擴充運動

九月一日ヨリ一ヶ月間、大蔵省側ノ奨励ニ依リ貯蓄第一線指導者ヲ動員シ強力ナル推進ヲナシ國民貯蓄組合
ニ關スル認識ノ昇揚ト組合ノ整備擴充ニカムルコトヲ目的トス。

(七) 文書ニ依ル運動

六月「戦費ト貯蓄」ト題セルリーフレットヲ作製頒布シ貯蓄ト戦費トノ關係ヲ闡明シ貯蓄ノ重要性ニツキ趣
旨ノ徹底ヲ圖ル。

二、今後ニ於ケル貯蓄運動展開策

(一) 貯蓄増強運動ノ本格的展開

戦時貯蓄動員本部各機關ノ活動ニ依リ貯蓄運動ヲ企畫シ、コレヲ實踐ニ移サントス。

(二) 大蔵大臣ヲ中心トスル貯蓄増強懇話會ノ開催

國民貯蓄増強推進ノ爲大蔵大臣ヲ臨席ヲ仰ギ帝都各區ノ町會長、府、市、區會議員、隣組長代表、國民學校

長其他傘下團體代表約四五百名ヲ招キ來ル九月二十三日ヨリ各區毎ニ懇話會ヲ開催ス。
尚ホ右ハ大阪市ニ於テモ開催ノ豫定ナリ。

(三) 國民貯蓄五百億突破記念大會ノ開催

右ハ九月三十日比谷公會堂ニ於テ大蔵省、東京府、東京市警視廳並ニ本會トノ共同主催ノ下ニ開催ス。
本大會ニ於テハ東條總理大臣、海軍大臣、大蔵大臣ノ挨拶ニ次イテ安藤副總裁ヨリ前線貯蓄ニ感謝ノ辭ヲ述
ベタル後感謝決議ヲ行フ。

(四) 公債消化促進ニ關スル運動

具體的方法ニツキ目下攻究中ナリ。

(五) 各種金融機關ノ資金吸收運動ノ促進

全國金融統制會ト連絡ヲ圖リ高額所得者及自由勞務者等ノ資金吸收ノ爲有效ナル運動ヲ展開セムトス。
(事例) 簡易店舗ノ増置ニ依ル資金吸收。預金者貯蓄組合ノ結成普及。集金制預金方法ノ實施。

(六) 農山漁村ニ於ケル資金吸收運動促進

(七) 帝國在郷軍人會會員ノ貯蓄増強運動促進

(八) 貯蓄報國精神昂揚運動

(イ) 各階層向宣傳用パンフレット作製頒布ニ依ル運動。

一四
(ロ) 長期ニ亘ル貯蓄政策ノ根本對策トシテ次代ヲ擔フ國民學校兒童ニ對シ近易ナル實踐目標トシテ特ニ勉、努力、消費節約貯蓄報國ノ徳目ヲ掲ゲコレガ實踐ノ指導ニガメシムルコト。

(九) 國民貯蓄ニ關スル調査

- (1) 貯蓄運動ノ效果及興論ノ調査
- (2) 各地方各階層ノ貯蓄事例調査
- (3) 貯蓄源泉培養事例調査
- (4) 貯蓄増加阻止ノ原因調査
- (5) 各地方各層ニ於ケル生活基準調査
- (6) 生活ノ合理化事例調査

(十) 貯蓄獎勵運動功勞者調査並ニ表彰

以上

